

## 2003.9.15 : 阪神甲子園球場



辻田 幸 史 (春秋会)

最初に断っておきますが、仕事はちゃんとやります(つもり)。

あ～長かった

タイガースが18年ぶりにリーグ優勝しました。前回の優勝は1985年(昭和60年)です。1985年を覚えておられますか、日航ジャンボが墜落した年です。皆さん何をされてましたか、私は大学3年生、学生実験を適当に終わらしてはヘルメットとメガホンもって球場通いしてました。あの年は21年ぶりの優勝でした。それ以来の優勝です。タイガースファンの皆さんおめでとうございます。万歳万歳。

昨年よりタイガースは闘将星野仙一監督を迎えました。去年はワールドカップによる変則日程が組まれた6月によもやの(予想通りの?)失速をしました。しかし、昨シーズンオフに伊良部,カネ(金本)という投打の主軸となる選手を迎え入れ、2003年はホンマにやるかもと思わしてくれてましたが、本当にやってくれました。

ネバサレの快進撃

しかし今年は強かった。とにかく甲子園でやたらと強い。特にGに襲い掛かる姿は凄かったし頼もしかった。強いタイガース見たさに各球場(除:広島市民)に足を運びました。6月15日の甲子園TGでのツル(片岡)の延長10回サヨナラ打1X-0の試合はもう無茶苦茶嬉しかった。ツルの他にも夏のロード明け最初の甲子園TGでの1回裏のカネの逆転3ラン、翌日の41歳トラ(広澤)の二打席連続の一発は今思い出してもゾクゾクします。

胴上げ見るで!

さて、そんなこんなで7月18日にマジックが点灯

した頃から、今年はナマで胴上げを絶対見ると、高校時代の観戦仲間と誓いました。思えば去年の9月24日、甲子園のライトスタンドからGの胴上げを彼と見ました。タイガースがサヨナラ勝ちしたにもかかわらず、マジック対象の燕(だったかな)が負けたためGの優勝が決まりました。勝利の六甲おろしが終わってからGの選手がベンチから出てきてマウンド付近で原監督を胴上げするのを悔しく見ました。ラジオかテレビかで「タイガースファンからも拍手が起こってます」といってたらしいのですが、そんなことする虎党はおらんかったと思います。少なくともライトスタンドは「はよやめんかい!」の大ブーイングでした。

7月はじめ、甲子園TGを彼と見に行く途中、梅田のとあるチケット屋で9月15日のアルプス自由席券が4800円で売られているのを見つけました(定価2200円)。「どうする買おとこか?」という話になり、7月の快進撃からすると「15日やと優勝決まったあとやるからどっちでもええけどまゝ買おとこか。」ということになって買いました。今年から甲子園の指定席券の販売方法が変わり、春先にTGを除く全試合の指定席券が売り出されることになったのですが、今年はタイガースファンの期待の現われか、その時点で9月15日の指定席券は既に売り切れていたのです。このようにして買ったアルプス自由席券がまさかプラチナチケットになるとはその時は思ってもいませんでした。

頼むでしかし!

9月7日、甲子園でベイに勝利してM5。タイガースは神宮,ナゴヤの6連戦ロードに出ました。今度甲子園に帰ってくる15日には優勝しとるのか、としみじみ思いながら球場を後にしました。ロード6連

戦のチケットは全て入手できていたので、甲子園での胴上げが見れないのは残念やけど、どこかで胴上げを見れるとその時は確信していました。ところがまさかの で5敗1分。「ええかげんに決めてくれな仕事にならんやないかい」と心の中で叫びながら、翌15日、M2でタイガースは甲子園に帰ってきました。



(2003.9.9 神宮球場：西出眞吾先生撮影)

#### 疲れもぶっ飛んだ感動フィナーレ

当日は、14時開始の甲子園でタイガースが鯉に勝ち、16時開始の浜スタで燕がベイに負ければ優勝という条件でした。何せ前日まで5敗1分なので、今日はないかもという気持ちもありましたが、甲子園での勝率を考えるとありえるかもということでもたってもいられなくなりました。また、甲子園では異例の事態で前日の朝に当日の自由席券が売り出され、徹夜で千人が開門を待っているという情報を新聞でキャッチ、これは急いでいかなければと開門(8時)前に甲子園に行くことにしました。

朝の7時半、甲子園に着くと、そこは1,3塁側アルプス自由席とレフト側外野自由席の開門を待つ人々……。加えて、翌日16日の自由席券を買うために並んでいる人々……。1塁側アルプスよりも3塁側アルプスの方が人数が少ないことはわかっていたので、良席をゲットするためにそちらに並びました。

8時開門でもスタンドに陣取れたのは8時半、それでも視界良好の席を確保できました。しかし、そこから試合開始まで5時間半が長い長い。眠たい、暑い、することないの三重苦に耐えながら待ちました。

14時試合開始。鯉に2点先制されるも、5回にオキ(沖原)のタイムリー、8回にツルの完璧な一発で同点に追いつくと、球場は最高潮に達しました(今こうして書いていてもゾクゾクする~)。そして9回裏、モンキー(藤本)のヒットを足がかりに1アウト満塁でレッド(赤星)の登場。打席に入るレッドに監督自らが耳打ちする姿、唸り上げるようないけいけの歓声、ベイが燕に4点先制されるもひっくり返したとの情報、たぶん観客はみな勝利とその日の胴上げを確信してたと思います。そして初球!...もう球場全体が間違いなく揺れてた。

レッドのサヨナラ打でM1、あとは燕の勝敗次第。約2時間、スコアボード横の大型画面に映し出される浜スタの試合を観戦。たぶんカープファン以外は誰も帰らなかったと思う。想いは皆一緒。がんばれベイスターズ、今年はホンとお世話になりました、ありがとうございます!最後の打者の真中が倒れるのと同時にジェット風船が飛び交い、グラウンドに目をやると選手が飛び出してた。監督の胴上げ、飛び跳ねてる選手たちを見ると涙がとまらなかった。

#### ツルの真実

最高の出来事は21時前に球場を後にして終わりましたが、その後は各テレビ局の特番チェックに大忙し。ツル曰く「この際ゆうとくけど、俺の実家は檜風呂ちゃうし、FAの金でリフォームもしてへん」(これ、わかる人にはわかる)。時間を忘れて延々見ました。

最後に断っておきますが、仕事はちゃんとやります(つもり)。